



平成27年2月2日

労働力問題小委員会による見学・体験会を実施

(一社)日本物流団体連合会は、平成27年1月27日、「労働力問題小委員会」の活動の一環として、(株)しまむらと、ユーピーアール(株)を訪問し、先進事例の見学・体験会を実施した。この行事には、同委員会のメンバーを中心に15名が参加した。

まず、参加者は、神奈川県秦野市内にある(株)しまむら秦野商品センターを訪れた。ここでは、委員会で取り上げた課題の一つ、「女性の活用」を実践している現場を見学した。

同センターは、敷地面積約3万1千㎡、建物面積約2万6千㎡、一日の取扱い個数は約10万ケースである。基幹センター間の幹線輸送及び南関東を中心とする店舗向け配送に対応しており、同社最大規模の通過型倉庫(T/C)と位置づけられている。マテハン機器により高度に省人化され、値札付けなどの流通加工は海外で行っていて、この施設内は、トラックとの結節点を除いて人手を要しない体制が構築されている。

同センターの職員構成は、所長を含む正社員3名と時間給社員数十名(最大時約80名)である。全体の約8割が主婦層など女性で、30～40代が中心である。時間給社員は、各セクションのリーダー業務を行う「M社員」とそれ以外のアルバイト社員で構成される。このようにして、意欲はあるがフルタイムは難しい主婦層に対して、柔軟な雇用形態を約30年前から設けている。また、納品されるカートンの重さや大きさに上限を設けるなど、女性にも無理なく作業できる条件を整えている。さらに、勤務シフトや休日計画は、子女の学校行事や親の介護等、ライフイベントを優先できるよう考慮することで、女性社員の定着率を高め、長期にわたる勤務を可能とする仕組みが設けられていた。

次に、東京都千代田区にあるユーピーアール(株)東京本社を訪問し、同社のパワーアシストスーツを体験した。

物流の現場では、女性や高齢者の活躍に期待があるが、現実には、倉庫内における手荷役など、肉体的な負担の大きさが課題となっている。同社は、物流の現場では多くの従業員が腰痛に悩むことに着目し、重いものを持ちたり体を屈めたりする作業を行う際に、腰にかかる負担を軽減するアシストスーツを開発し、昨年9月からレンタル方式による提供を開始した。

機器のラインアップは2種類、ホースを繋いで圧縮空気を動力とするタイプと、バッテリー電源を動力とするタイプがあり、今回は補助力が大きい前者(最大30kgfの補助力)を体験した。参加者は、用意されたビールケース(20kg)を持ち上げて、それぞれ効果を感じ取っていた。

駆動スイッチの操作などに多少の馴れは必要なものの、強い補助力に加えて作業工程に合わせ補助時間の調整が可能なことや、装着時の違和感が少ないことから、施設内における手荷役などに活用が期待できるという声が寄せられた。

同社からは、本機器を導入する際のコンセプトについて、「作業する人の労働負荷の軽減を目的としている。労働生産性の向上を目指すものではない。」という、明確な考え方が示された。

この施設見学を踏まえて、委員会では年度末に向けて報告書のまとめを進める。

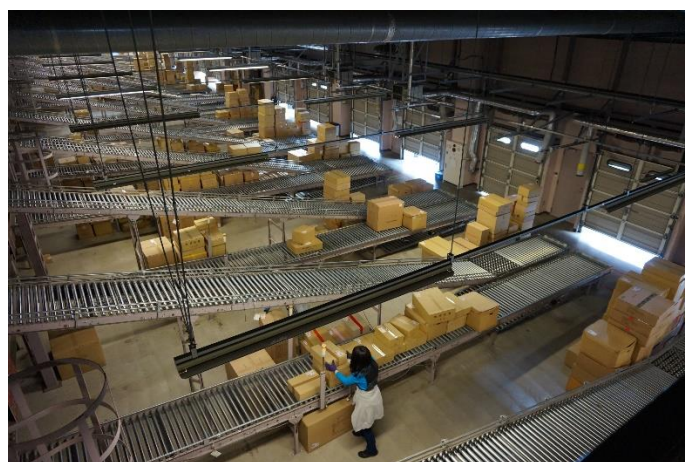
以上
事務局 小野



株しまむら 秦野商品センター①



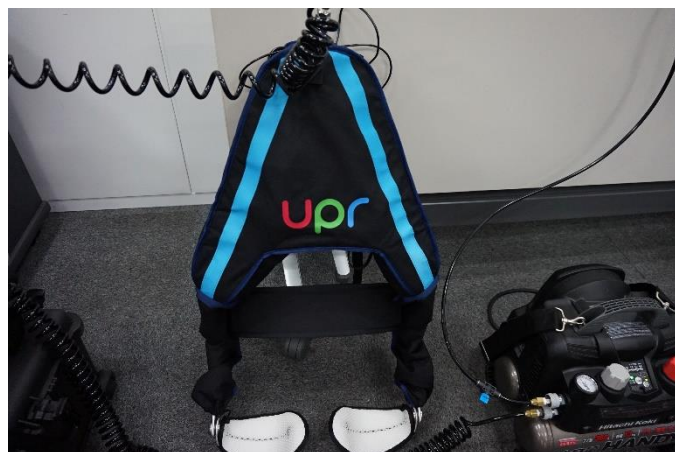
同②



同③



同④



ユーピーアール(株)東京本社①



同②



同③



同④